

2022年度(令和4年度) 大阪暁光高等学校 学校評価

1. めざす学校像

学校法人千代田学園の始まりは、真言宗盛松寺住職の故高橋道雄師が、第二次世界大戦後の荒んだ世相を憂いて、庶民のために学問所を開いた弘法大師空海(774-835年)の偉業に倣い、1950年に千代田高等学校、附属幼稚園を開設したところに遡る。弘法大師は、身分や貧富にかかわらずなく門戸を広く庶民に開放し、あらゆる思想・学芸を総合的に学ぶことができる私立学校「綜芸種智院」を創設(829年)し、そこで多くの前途有為な青年を育てようとした。本学園は、この精神を受け継いでいる。

「人間教育」を建学の精神として、若い世代に豊かな人間性を培うとともに、平和で民主的な社会の形成者として必要な知識、教養と、それに基づいた技術を教授することにより、社会や地域を支え、また支えられる人間を育成することを基本的な考え方としている。その具現化として、本校は、社会的共通基盤を担う教育、福祉、医療など対人援助職の分野を指向する若人を輩出する学園づくりを大きな社会的ミッションとしている。本校は、これまで積み上げてきた一人ひとりが自らの人生の主人公として生きる力(主権者教育)の成果を土台としつつ、志や目標を持って入学してきた生徒とその保護者の期待に応えていくための教育の創造に全力で取り組んでいく。

2. 中期的目標

1. 「人間教育」を理念とする普通科の魅力を生み出す教育実践を行う。
  - (1) 普通科の新コースである教育探究コース、幼児教育コースの教育内容を完成させていく。
  - (2) 「わかる授業」「深く考え参加する授業」の実現に向けて授業改革をすすめていく。
  - (3) 特別活動を教育活動にしっかり位置づけ、自治の力を育てていく。
  - (4) 社会的モラルを培い民主的な人格の形成につながる生活指導をすすめていく。
  - (5) 特別支援教育を充実させ、特別なニーズを持つ生徒をサポートしていく。
  - (6) 生徒の発達可能性を信じて諦めない指導を続け、退学者を減らしていく。
2. 系統的なキャリア教育を推進し、全ての生徒が卒業後の進路決定をできるようにする。
  - (1) 1年次は“職業”、2年次は“学問”をテーマに卒業後のキャリアを考えさせていく。
  - (2) 年間教育活動の中で、進路実現につながる多様なサポートをすすめていく。
  - (3) 併設短大への内部進学希望者を増やす。
3. 基礎的な理論・技術と患者一人ひとりをかけがえのない存在として捉えられる看護師を育成する。
  - (1) 命と向き合う職業に就く者としての自覚と誇りを育てていく。
  - (2) 看護専門科目と普通科目を共に重視し、基礎学力の向上を踏まえていく。
  - (3) 将来、医療現場でチームとして働くことを考え、チームで責任を果たせる力をつけていく。
  - (4) 就職活動、臨地実習、国家試験の受験学習を両立して取り組ませ、国家試験100%合格をめざす。
4. 高校を支える諸組織や地域との連携を強め、地域社会に貢献する。
5. 部活動を活性化させていく

《学校アンケートについて》

教育活動の現状や問題点を確認・点検し、教育改善のための方策を明らかにする目的で、学校アンケートを2022年10月に実施した。アンケートは、【A. そう思う、B. どちらかと言えばそう思う、C. どちらかと言えばそう思わない、D. そう思わない、E. わからない】の5択である。( )内の数値は、「A そう思う」「Bどちらかと言えばそう思う」を合算したパーセント、回答数は、生徒682名(81.6%)、保護者525名(62.8%)である。

3. 学校関係者による評価

【実施評価委員会】2023年5月27日に開催

委員長 石井雅彦(教育アドバイザー)

評価委員 城向英司(PTA会長) 葛目巳恵子(同窓会会長) 玉崎和実(地元自治会長) 福井雅英(教育探究コース特別講師) 河野直明(学園監事)

1. 保護者の学校への満足度は高いと評価できる  
「この学校に入学してよかった」 在校生(66.2) 保護者(83.6)  
保護者の評価は高いが、生徒については実態や思いを踏まえた不断の改革が求められる。
2. 科・コースの特色ある授業が非常に高く評価されている  
「科・コースの特色ある授業が行われている」 在校生(88.3) 保護者(91.7)  
生徒・保護者とも、非常に評価が高い。毎年改善しながら進めてきたカリキュラムマネジメントの成果が現れている。
3. 施設・設備や校内美化への評価が高い  
「施設や設備に満足している」 在校生(74.3)  
「校内美化が行き届いている」 在校生(85.8)  
施設グループの職員も含めて、学校全体として生徒の学ぶ環境を整えてきた成果といえる。
4. 体育大会・文化祭・球技大会等の行事が高く評価されている。  
「行事は、生徒が楽しく参加できる(体育大会・文化祭・球技大会等)」 在校生(75.9) 保護者(82.3)  
コロナ禍で制約があったものの、様々な工夫をおこない行事を実施したことが、生徒・保護者の高い評価に繋がっている。
5. 生徒が主体的に学ぶ授業づくりが課題である  
「多くの教科がわかりやすい授業になっている」 在校生(66.7)  
「授業中に深く考えたり、意見を述べたりする機会がある」 在校生(57.6)  
「わかりやすい授業」の展開は一定できているが、学び合い学習、題解決的な学習など、「生徒が参加し自ら学ぶ授業」への転換が求められる。
6. 授業規律の確立は、生徒・保護者が望んでいる  
「授業規律について教員がしっかり指導している」 保護者(57.8)  
休み時間の延長として一部にある授業中の私語・スマホの問題改善は、多くの生徒・保護者が望んでいることであり、学力向上にとっても重要な課題である。

7、生徒の心理的安全性の確保は、学校の基盤を支える課題である 「必要に応じて保健室やカウンセリングの先生に相談ができる」 在校生(55.2) 「一人ひとりに配慮した指導が行われ、悩みがある時は安心して先生に相談できる」 在校生(58.6) 生徒の心理的安全性の確保は、生徒が学校生活を送るうえでの基盤であり、対応の充実が必要である。
8、1年生からの進路指導を充実させる必要がある 「希望する進路を実現するための指導が丁寧におこなわれている」 在校生(56.6) 「卒業後の進路を考える機会が1年生からつくられている」 在校生(53.6) 学習指導や相談体制の進路指導に関する数値は一定評価されているが、1年生からの指導の充実が望まれる。
9、いじめの実態把握に引き続き留意する 「今、いじめを受けている。4月以降受けたことがある」 在校生(いいえ:97.8 はい:2.1) いじめの数値が高いわけではないが、いじめが存在している。当該クラスに伝え、実態把握に努め見守り体制を強化していく。ネット上のいじめについては、特に気を付ける必要がある。
10、校則・ルールの指導について保護者からの要望が多くある 「適切である」在校生(51.8)保護者(64.1)「緩すぎる」在校生(16.1)保護者(30.5)「厳すぎる」在校生(32.1)保護者(5.4) 「この学校の指導を信頼できる」保護者(71.7) 学校の指導に対する保護者の信頼は、おおむね得られていると評価できる。校則・ルールの指導については、「適切である」との回答が在校生・保護者共に最も多いが、自由記述欄において「厳しく指導して欲しい」等の改善要望が一部保護者から強く寄せられている。それらを踏まえて、早急に方針を持ち改善していく必要がある。
11、ホームページの情報提供について保護者から評価されている 「ホームページの内容は十分であり適切な情報が提供されている」保護者(76.2) 毎日、新着情報を更新しているホームページは、保護者の学校への信頼獲得に貢献している。

#### 学校評価委員の意見より

- ✪ 在校生から682件、家族から525件の回答を得られたことは、学校への関心の高さを感じるとともに、学校側からの日常の情報提供や関りへの努力を感じる。
- ✪ 進路指導について満足している生徒は約半数である。満足できていない生徒の声を具体的につかむ必要があるのではないかと。
- ✪ 学校内でいじめを受けていないと回答した生徒が97.7%いるという結果から、ひとまず安全な学校であると評価できるが、「いじめを受けている」と回答した生徒へのフォローアップが気になる点である。保護者の中にも、自分の子どもがいじめを受けていると答えた方が同じ割合で存在していることに着目する必要があるのではないかと。
- ✪ 施設・設備面における学校環境、並びに学校行事面では、在校生ならびに保護者とも満足度が高く、評価を受けている。しかし「入学してよかったと思う」の質問に関しては、保護者評価が83.6%と高いのに対して、在校生の評価が66.2%と差異がある。進路指導、相談体制、生活指導面等の学校生活面で4割が満足していない状況にあり改革が必要と思われる。
- ✪ 自由記述欄で、授業に関する様々な意見が出されている。改革すべき事項が示されていると思う。これらの意見を踏まえて、今後の改革に取り組む必要がある。今後も建学の精神である「人間教育を」基本理念として、1人ひとりに丁寧な指導が行なわれることを期待する。

#### 4. 本年度の取り組み 及び 自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価の指標	総括・自己評価
1 普通科の魅力を創出する人間教育の前進	(1) 開設4年目の教育探究コースと幼児教育コースの充実を語る。	《教育探究コース》 ・活動的な授業を年20回以上実施 ・調査研究活動を年50時間以上実施 ・プレゼンテーションを年3回以上実施  《幼児教育コース》 ・保育実習を各学年1回以上実施 ・高短連携授業の充実 ・保育ボランティアを年2回以上実施 ・保育検定の実施	・学校アンケート ・特色あるカリキュラムの実施回数	《教育探究コース》 ・活動的な授業を年80回以上実施、調査研究活動を年200時間以上実施、プレゼンテーションを年55回以上実施。 ・コロナ禍でも感染対策を講じて、フィールドワーク、高野山合宿、楠小中学校訪問、天野小学校訪問、大空小学校訪問を実施した。 ・ニュージーランド研修を実施した。 ・河内長野市教育委員会との協働で地域学習に取り組み、その成果を市主催イベントで生徒が発表したり、千代田公民館講座の運営を生徒が担ったりするなど、「社会に開かれた教育課程」を推進・実現した。 ・「特色ある授業が行われている」が97.2%とコースに対する満足度が高い。 ・「教育人間探究の時間」において、自己探究・地域探究・教育人間探究を柱に、たくさんの「ヒト・モノ・コト」に出会わせながら「学びを自己との往還」を重ねた。プレゼンテーション等を通して探究的なスキルと表現力を身に付けてきた。 ・高野山大学文学部教育学科と連携した授業をおこなった。  《幼児教育コース》 ・コロナ禍にあっても子どもと関わる機会を作り、1年生で「クリスマスコンサート」「こども園遊び体験」、2年生で「夏祭り実習」、3年生で「こども園1日実習」を実施した。 ・「特色ある授業が行われている」が86.0%とコースに対する満足度が高い。 ・「保育者のこころ」と人権思想に裏付けられた子ども観を持つ子どもに寄り添う保育者を育てるために、基礎学力の育成に力を入れ、特別活動に積極的に取り組ませた。 ・幼児教育・保育の園児指導経験者が「保育実習演習」や「高短連携授業」を担当し、授業の充実を図ることができた。 ・幼児教育以外の進路希望者が、「ピアノ」「高短連携授業」等の保育専門科目において学習姿勢を後退させた。カリキュラム改善をおこない、対応していく必要がある。 ・3年生対象に保育検定を実施した。生徒の達成感につながったものの教育的意味や教員負担の面で意見が出された。
	(2) 「わかる授業」「深く考え参加する授業」の実現に向けて授業改革をすすめる	・教科会議の定例化と実践交流 ・公開授業の定例化 ・夏期校内研究会での教育実践の交流 ・新教育課程の策定に向け「新教育課程づくり委員会」で議論 ・ICT教育係の立ち上げ、ICT教育環境	・学校アンケート ・生徒からの意見や要望 ・生徒総会に出された要求	・「わかりやすい授業になっている」が66.7%、「深く考えたり意見を述べたりする機会がある」が57.6%であり、「わかりやすい授業」は一定達成できているが、学び合い学習、題解決学習などの「生徒が参加し自ら学ぶ授業」への転換が求められている。「思考力・判断力・表現力」を、より一層力を入れて指導していく。 ・週1回の教科会議を定例化し、生徒の現状分析と実践交流をおこなうことができた。 ・ICT教育係会議を定例化し、2023年度から教育探究コースにおいて一人1台のタブレットの先行導入に向けて議論を進めた。 ・公開授業を2回実施。教科の枠を超えてオープンに学び合えた。

	整備と実践研究		<ul style="list-style-type: none"> <li>8月に本校教育アドバイザーの福井雅英氏を招いて「教育評価と教育実践」について学習会を開催した。千代田短大と高野山大学からの実践報告を受け、パートナーシップを深める場を持った。</li> <li>学校週5日制実施に伴い、授業日数確保に苦労した。</li> </ul>
(3) 特別活動を教育活動の中にしっかりと位置づけ、自治の力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員会等を組織し、生徒中心に行事を運営</li> <li>行事や生徒会活動で全校集団づくりを推進</li> <li>月曜放課後のHR活動活用</li> <li>家庭学習週間、放課後学習会をクラス活動として展開</li> <li>生徒会議案書討議の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に2年ぶりに体育大会を実施した。当日は2・3年生のみグラウンドに応援席を設置し、昨年より種目を増やした。3年生を中心に結成された応援団はよくまとまり、見事な発表を披露した。</li> <li>コロナ禍で縮小していた文化祭を、コロナ前の状況にできるだけ戻すべく生徒実行委員会を中心に相談しながら進めた。</li> <li>文化祭では、密を避けるために、2部制にして体育館発表をおこなった。PTAの援助を受けて実施したキッチンカーは大変好評であった。クラスの学習会、外部講師の講演やフィールドワーク等を積極的に実施し、視野を広げることができた。</li> <li>「行事は生徒が楽しく参加できるものになっている」が生徒76.3%・保護者82.2%と、コロナ禍で難しさがあるものの高い水準を保っている。</li> <li>全校集団づくりの一環として縦割り充実ノート学習会を実施。3年生が自信と成長感を持った。</li> <li>テスト前放課後学習会を全てのクラスで実施できた。50%を超える生徒が、学習意欲向上のきっかけとしてKG・充実ノート、放課後学習会をあげている。</li> <li>「家庭学習週間」に約60%以上の生徒が参加することができた。取り組みをクラス活動として展開し、さらに多くの生徒が参加することが課題になっている。</li> <li>HR活動として位置付けている月曜放課後の時間帯を、十分活用できていないクラスが存在した。</li> <li>生徒総会において、すべての全クラスが学校への施設設備や授業に対する要求を提出し、要求実現運動に取り組めた。</li> </ul>
(4) 社会的モラルを培い民主的な人格の形成につながる生活指導をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の行動の背景を掴みながら指導</li> <li>遅刻欠席指導での家庭との連携強化</li> <li>スマホ・マナーについてHRで考えさせて指導</li> <li>学期始め・定期考査前の頭髪指導</li> <li>学期に1度の1日玄関指導</li> <li>生活指導を業務とする常勤講師の雇用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍が生徒の精神面や生活基本的生活習慣に大きな影響を与える中、個々の状況をしっかりと掴み支えていく方針を持って指導に臨んだ。</li> <li>進学総合コースと幼児教育コースの3年生で、遅刻10名以上のクラスが2桁以上あった。生活の実態調査を踏まえた分析が必要である。保護者には、日々の連絡と月末ハガキで通知しているが、さらに連絡を密にとっていく必要がある。</li> <li>頭髪指導は、再登校指導の方針を持ち、保護者の協力も得て違反者に対応した。</li> <li>生活指導を主たる業務とする常勤講師の配置し、毎休み時間に通用門指導、更衣室の戸締り、廊下巡回を行った。報告に基づき次の方針を持つ必要がある。</li> <li>「授業時間と休憩時間のメリハリがある」のアンケート結果が45.9%を悪く、課題である。</li> <li>スマホ指導について、マナーや取り扱いについて、振り返らせるHRを持つことができていない。SNSについてのルール作りが早急に求められる。スマホ対策は次年度に向けての大きな課題である。</li> <li>「命や人権を尊重し差別を許さない教育が行われている」は71.5%である。これは「人間教育」の理念に基づく人権教育がおこなわれている結果である。</li> <li>教師が生徒としっかりと対話し、問題行動の背景を掴み、生徒自身の課題と向き合える指導をすすめられるよう、研修を実施していく必要がある。</li> </ul>
(5) 特別支援教育を充実させ、特別なニーズを持つ生徒をサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の構成員で組織された特別支援係会議の週1回の定例化</li> <li>必要に応じてケース会議を行う。</li> <li>学級担任と養護教諭、スクールカウンセラーが情報を共有し、適切な指導を行う。</li> <li>サポートルームを常設する。</li> <li>スーパーバイザーの招聘</li> <li>外部機関との連携をはかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果</li> <li>会議内容</li> <li>学習会実施状況</li> <li>サポートルーム利用状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「必要に応じて保健室やカウンセリングの先生に相談ができる」は55.2%、「一人ひとりの性格や諸事情に配慮した指導が行われ、悩みがあるときに安心して先生に相談できる」は58.6%であり、さらに生徒が安心して過ごすことができる環境を充実させる必要がある。</li> <li>特別支援コーディネーターの下に週1回のペースで特別支援係会議を行い、支援が必要な生徒の情報を共有した。</li> <li>適宜ケース会議を持ち、支援が必要な生徒への見方を一致させ指導した。</li> <li>サポートルームに担当者を配置。教室に居りにくい生徒の学習援助・悩みの相談などを行った。内容については適宜担任に報告し、生徒理解を深めた。</li> <li>スーパーバイザーを招聘し、支援が必要な生徒や専門機関に繋いだ。</li> <li>進路指導や総合的な生徒指導の面での具体化を図った。</li> <li>特別支援コーディネーターは研修会に参加し、他校の取り組み状況等に学んだ。</li> </ul>
(6) 生徒の発達の可能性を信じ、諦めない指導を続け、退学者減らしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に寄り添う丁寧な指導</li> <li>保護者との日常的な共同</li> <li>転退学者率を5%以内にする</li> <li>経験の浅い教員をサポート体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転退学者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と比較し、専攻科を含む1～5年生の転退学者率は3.5%→2.6%に、1～3年生の転退学者率は3.2%→2.5%に減少させることができ、退学者5%以内の目標を達成することができた。サポートルームを設置し、進級に関わる生徒のケアをより丁寧におこなうことができるようになったことが成果として現れている。</li> <li>三者面談では経験の浅い教員をサポートする体制を作った。</li> <li>10年スパンで見ると最高時5%程度あった転退学者が大きく減少している。これは「行きたい学校づくり」を目指して学校改革をおこなって来た成果である。</li> </ul>
キ 系統的なキャリア教育を推進し、全ての生徒が卒業後の進路決定をできるように	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じたキャリア教育の推進</li> <li>基礎学力の定着及び学力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路状況</li> <li>資格検定者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では、進路適性検査をおこない、その後で職業理解のための「職業分野別ガイダンス」をおこなった。振り返りの時間を設け、生徒自身の将来について考える機会を持つことができた。2年生</li> </ul>

<p>キャリア教育の推進と進路実現</p>	<p>する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員の進路決定</li> <li>・看護医療系進学希望者の個別指導による実力養成</li> <li>・英検、漢検などの各種検定試験での資格取得</li> </ul>		<p>では、上級学校へのオープンキャンパス参加促進を図った。3年生では、4月に進路決定に向けて学部学科理解のための「学問分野理解ガイダンス」をおこなった。生徒の実態をもとにキャリア教育を充実させていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は、進路説明会を4月7月8月と3回実施し、進路指導部と担任が連携して希望進路や受験先に合わせたきめ細やかな指導をおこなった。</li> <li>・国数英の教科で進路講習を実施した。参加者は意欲を持って学んだ。</li> <li>・就職希望者14名の内定率は2次募集も含めると100%であったが、就職希望者に対する基礎学力、コミュニケーション能力の育成及び受験に向けての一人ひとりへの個別指導等が課題として見えてきた。</li> <li>・看護医療系の進学希望者21名の合格率は100%であった。これは、進学総合コースで看護医療系の選択科目を2年段階で2単位、3年段階で4単位設定し、受験校の分析をおこない、一人ひとりに合わせた個人指導を放課後おこなった結果である。</li> <li>・延べで100名近くが英検、漢検、情報処理各種検定に合格できた。努力が結果として現れ、達成感を持つことができた。</li> </ul>
<p>③ 五年一貫看護科課程の完成</p>	<p>基礎的な理論・技術と患者一人ひとりをかけがえのない存在として捉えられる看護師を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命と向き合う専門職としての自覚と誇りの育成</li> <li>・高校3年間の基礎学力の向上</li> <li>・臨地実習での指導者・患者からの学びの充実</li> <li>・チーム責任を果たすことができる力の育成</li> <li>・看護専攻科における就職活動、臨地実習と国家試験対策の両立</li> <li>・国家試験合格100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケート</li> <li>・国家試験合格率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの実施1年目であるが、1年生は臨地実習を1単位減らして、その分学内実習を充実させた。バイタルサイン測定ができるようになることで、次年度へのモチベーションを高められた。放課後残って自主的に練習する姿勢を育むことができた。</li> <li>・生徒会が取り組む家庭学習ノートに毎日取り組めるようにと、看護科として自主学習課題を提供に取り組みさせた。積極的に学ぶ生徒が多く生まれたが、組まない生徒も残した。</li> <li>・2年生の戴帽式では、戴帽式委員が歌や決意など主体的に努力し、式典を成功に向けて取り組んだ。中学時代の恩師が、生徒の成長に感動されていた。</li> <li>・4年生が初めて高校の文化祭に参加した。模擬店の企画・運営を自主的におこない成功させた。見通しをもって進めていく経験を積ませることができ、連帯感が醸成された。</li> <li>・5年生の臨地実習では、患者さんを第一に考えた援助や看護を創造的に考えさせる事ができ、互いの報告から学ぶ姿勢が良かった。気づきと振り返りを通して成長感を持つことができた。</li> <li>・4年生の下位層の学力を伸ばす指導が弱かった。再試者が多く、主体的に学べていない生徒への学習指導が必要と総括した。</li> <li>・国家試験対策では、既卒者も含めると99%という合格率を残すことができたが、5年生は、学びにおいて集団的な取り組みが進まず、89.4%となった。生徒のメンタル面での指導の必要性が出てきた。既卒生については、これまで通り9月より学校に来て学習するとともに、学校で丁寧に分析して指導をおこなった結果100%合格できた。</li> </ul>
<p>④ 地域との連携</p>	<p>地域の諸組織との連携を強める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会の協力を得た看護科「老年看護」実習の実施</li> <li>・地域全育成会、防災訓練、文化行事、美化活動への参加</li> <li>・敬老会への慰問ボランティア</li> <li>・地域中学校の部活大会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加回数</li> <li>・参加生徒の声、地域団体からの意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楠小学校区つながろう会」主催の防災訓練で、看護専攻科生が地域住民に対して救急医療講習をおこない、ボランティア部員が子どもの案内係を担当した。</li> <li>・「千代田中学校健全育成会」主催の「バラエティフェスタ」で吹奏楽部と軽音楽部が演奏をおこなった。</li> <li>・「千代田中学校健全育成会」主催の「あいあい活動(あいさつ運動)」に、生徒会・ボランティア部・軽音楽部が参加した。</li> <li>・地元自治会の敬老会で、茶道部が御点前を披露し交流した。</li> <li>・天王寺動物園の「ナイトズー」企画において、3年生幼児教育コースの生徒が子ども遊びコーナーを担当した。</li> <li>・ユニセフと提携し、様々な企画に参加した。①チャリティーバザーに生徒有志が参加。②ユニセフ新春のついで、生徒有志が「難民問題」を発表。③ユニセフと共催して「ユニセフシアター上映会」を開催し、生徒有志が「難民」「子ども兵士」「中国残留孤児」について発表。</li> <li>・河内長野市内中学校6校の女子バスケットボール大会を本校主催で開催。クラブ員が運営を担った。</li> </ul>
<p>⑤ 部活動</p>	<p>クラブ員を増やし、高校教育の目的に沿った部活動を進める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部指導者の招聘</li> <li>・クラブ顧問会議での活動交流</li> <li>・クラブ活動の目標の明確化</li> <li>・「クラブ活動のあり方に関する方針」に沿った活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動内容</li> <li>・クラブ顧問会議の活動報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントン部、空手部、ダンス部、吹奏楽部、イラスト部、バレエ部で外部指導者を招聘し、専門的な指導を受けられるようにした。</li> <li>・「顧問の先生やコーチの指導に満足している」が64.2%、「キャプテンや部長中心に生徒が運営できている」が64.6%である。生徒中心の運営をおこなうことは、高校教育における部活動の目的そのものに関わるものである。「クラブ活動のあり方に関する方針」に沿って部活動の目標を明確にして指導していく必要がある。</li> </ul>